

下野市立吉田東小学校

1 学校課題

学力向上を目指す算数学習の在り方を求めて
～基礎基本の定着を図る、生き生き授業づくり～

2 研究計画

(1) 課題設定の理由

児童一人一人が夢や希望に向かって力強く自己実現を図っていきけるようにするためには、確かな学力を育成することが重要である。また、そのためには「学びの連続性」を重視した組織や体制を構築することが不可欠である。

本校は、平成26年度「学力アドバイザー派遣指定校」として取り組んだ結果、児童の基礎的・基本的な知識・技能の習得が十分とは言えない状態が明らかになった。

そこで、今年度は、児童が生き生きと学習に取り組みながら基礎・基本を身に付ける授業の在り方について研究していきたいと考え、その糸口を算数科の学習に求め、本主題を設定した。

(2) 研究の仮説

次のような取組を進めていけば、児童一人一人に学び方を身に付けさせることができ、児童一人一人の基礎的・基本的な学力向上が図れるのではないかと。

(基礎・基本)

「算数の手引き」や「計算大会」等を活用し、系統的に指導を工夫することで、基礎的・基本的な知識・技能の習得は図れるであろう。

(思考力・判断力)

既習事項を生かして課題解決するために、考えを図や式に表し、説明する活動を工夫することで、友達と学び合いながら、思考力・判断力が高められるであろう。

3 研究内容

(1) 生き生き授業づくり

① 算数学習の基本的な流れの見直し、系統的な指導

ア 「算数の手引き」の作成・活用

② 児童の育てたい資質・能力・態度を明確にした単元計画の作成及び実践

ア めあての持たせ方の工夫（課題の捉えさせ方の工夫）

- ・ 児童の興味・関心を引きつける問題提示
- ・ 考える必要性が感じられる問題づくり
- ・ 課題解決の見通しと方法

イ 算数的活動の工夫・・・ねらいに合う活動（学習指導要領解説P10～11参照）

- ・ 具体物を数えたり、操作したりする活動
- ・ 計算の仕方や考えを説明する活動
- ・ 目的に応じて表やグラフを選び活用する活動等

ウ まとめと振り返りの時間の充実

- ・ 1時間の流れが分かる板書
- ・ 達成感・満足感を味わえる振り返り



(2) 日常の取組

① 家庭学習の充実

② 百マス計算大会等の学年の枠を外した学びの場の設定

- ③ ノート指導の工夫
 - ・児童の思考の流れが分かるノートづくり
- ④ 表現活動の工夫
 - ・基本話型を生かし、相手に分かりやすく説明できるような指導支援

(3) 研究実践授業

- ① 6年 算数 「速さ」 (6月22日)
- ② 5年 算数 「整数の性質」 (7月15日)
- ③ 4年 算数 「面積」 (9月9日)
- ④ 2年 算数 「かけ算」 (10月16日)
- ⑤ 1年 算数 「くらべかた」 (12月16日)



4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ① 職員研修で、算数科の授業の流れ、めあて・まとめの提示の仕方、文章問題のアンダーラインの引かせ方、学習のきまり、家庭学習の4か条などについて改めて話し合いをして、共通理解を図り、同一歩調で進めることができた。
- ② 単元の学習計画を掲示することで、教師も児童も見通しを持って意欲的に学習を進めることができた。また、1時間ごとにワークシートを作るなど工夫することで、振り返りがスムーズにできた。
- ③ 課題を設定するとき、子供達の身近なことから考えたので、意欲的に取り組むことができた。また、発達段階に合った板書の仕方やまとめ方などの工夫について話し合うことができた。
- ④ 具体物や数直線などを使い自分の言葉で説明する算数的な活動を工夫することができた。ペア学習では、組ませ方を工夫し、どの子も活動する・どの子も考える授業を展開することができ、学びの実感につながった。
- ⑤ 百マス計算大会(足し算・引き算・かけ算)を行ったことにより、計算力が少しずつ確実にになっている。

(2) 課題

- ① テープ図、数直線などその学年で必ず指導しておかなければならない内容を確認し、系統的な指導に役立てる。
- ② ペア学習の支援の仕方を工夫する。(解決方法を考えられないペアになってしまったときの手立てを指導案に入れておく)
- ③ 算数的な活動を行うための意図を吟味して、準備物を用意することが大切なので、この時間に身に付けたい力を確認していくことが必要である。
- ④ めあてとまとめの関連や学習の振り返りの仕方を工夫していく。

